

地球科学投稿規程

(2025年1月一部改定)

地球科学 投稿から印刷までの流れ

- ①原稿の投稿 → 電子ファイル（メール添付，ファイル転送サービスまたはUSBメモリ等）
- ②原稿の受付 → 受付通知の送付.
- ③エディターの選定：編集委員会が1名の担当エディターを選定する.
- ④査読者の選定：担当エディターが2名の査読者を選定する. →原稿の発送 → 査読 → 原稿の返送
- ⑤査読内容の確認：担当エディターが査読内容を確認する.
 - 著者への査読結果の発送（受付後2ヵ月以内：諸般の事情により多少の遅延あり）ただし，エディターが掲載不可と判断した場合は著者への報告はなく，編集委員会において審議する.
 - 修正検討
- ⑥修正稿の返送：著者は査読結果を受け取ってから6ヶ月以内に修正稿を返送する（原稿送付先に返送）.
- ⑦修正稿の受領：担当エディターが修正内容を確認する.
 - 再査読へ（→受理相当原稿として保管）
- ⑧編集委員会（メール審議：1週間程度）
 - 受理の決定 →入稿原稿（電子ファイル・紙原図）の要求.
- ⑨印刷
 - 入稿 →著者校正：原則1回 →編集校正（2～3回）
 - 印刷

投稿規程

1. 地球科学に掲載される原稿

内容が広い意味での地球科学に関連するものであり，本規程の「原稿の書き方」「投稿の手続」に合致すると編集委員会が認めたもの.

(1) 投稿資格 著者の少なくとも一人は地学団体研究会の会員であること. ただし，編集委員会が原稿を依頼した場合はこの限りではない.

(2) 原稿の種目・内容

原著論文 (Research Article)：団体研究や個人研究の成果で，内容の主要な部分が他の学術雑誌に公表されていないオリジナルな研究論文.

総説 (Review)：個別分野あるいは広域的な地球科学的研究内容や学説，あるいは研究方法を総括・解説し，研究の動向・展望をまとめたもの.

短報 (Short Report)：短い論文，あるいは重要な新しい発見・事実の報告.

オープンデータ (Open Data)：地球科学の論文（原著論文・総説・短報）の補足資料や根拠となるデータを電子ファイルの形式で科学技術振興機構（JST）が運用する

J-STAGE Data に登録できる. オープンデータの投稿に関する詳細は，地球科学オープンデータに関する細則に定める.

ノート (Note)：研究方法や技術に関する提案，あるいは研究過程で生まれたアイデアの提案.

討論 (Discussion)：本誌および地団研専報に掲載された論文に関する学術的な討論.

紹介 (Introduction)：重要な地域の地質や岩石，地質構造，および地学現象，学説，技術などの紹介.

資料 (Data)：放射年代値，岩石試料の分析値，あるテーマに関する文献リスト，卒論や修論，団研活動あるいは業務の中で得られたデータなど，議論を含まないもの.

用語解説 (Explanation of Geologic Term)：地球科学に関する用語や用法の解説.

フォト (Photo)：地学現象に関する写真を中心とした短い解説.

書評 (Book Review)：地球科学に関する単行本やモノグラフの紹介と批評.

地球科学の窓 (地学情報) (Earth Science Today)：地球科学における研究の最新情報.

その他：上にあげたもの以外に，編集委員会が掲載を認めた原稿.

(3) 原稿の用語 日本語または英語とする.

(4) 原稿の長さ 原著論文，総説，紹介は制限刷上り頁数を16頁，最大頁数を24頁までとする. 短報，討論，ノートは制限頁数を4頁，最大頁数を6頁とする. 資料は10頁までとする. 用語解説，地学情報，書評は2頁までとする. フォトは原則として写真説明を含め2頁とするが，最大1頁の解説文を加えることもできる.

2. 日本語原稿の書き方

原稿の書式 MS Word を使用し，A4判に横書き36字×36行（刷上りの約1/2頁分）で，上下，左右，行間に余白を十分にとる.

文体等 原則として当用漢字を用いる. ただし，固有名詞や慣用語はこの限りでない. 難読の地名などにはふりがなをつける. 本文中では学名・人名・地名・訳語の定着していない学術用語などを除き，外国語綴りを避ける.

全角・半角 ひらがな・カタカナ・漢字・カッコ・句読点は全角文字，ローマ字と数字は半角文字とする.

単位 数量の単位は，原則としてSI単位および地球科学分野で慣用される単位とする.

口頭発表した原稿・プレプリントを公表した原稿 学会・研究会等で既に講演・発表した原稿，各種プレプリントサーバに公表した原稿は，その旨脚注に明記しなければならない. プレプリントとして公表された原稿が地球科学への掲載を承認された場合，著者はプレプリントを更

新して、公開された論文へのリンクを設定する必要がある。

所属支部・所属機関 著者が地団研会員である場合は、その所属支部を脚注に明記する。原著論文・総説・短報・討論・紹介・資料・フォトは、著者の所属機関とその住所を日本語および外国語で表記する。連絡責任者のメールアドレスがあれば記載することが望ましい。団研等グループでの原稿の際も代表者の氏名、所属機関、住所を日本語と外国語で併記する。上記の原稿以外は、末尾に所属支部と氏名のみ、日本語で記す。

英文標題と著者名・要旨 書評以外の原稿には英語による標題、著者名を付す。原著論文、総説の原稿には英文要旨および和文要旨を、短報の原稿には英文要旨をつける。英文要旨は刷上りで1/3頁位(約300語)までとする。英文要旨の書き方は「英文原稿の書き方」に従う。和文要旨には和文と英文の著者名と表題をつけ、本文を600字以内とする。

キーワード 原著論文・総説・短報・ノート・討論には、英語のキーワードまたはキーフレーズの原稿をつける(10語以内)。

(例)

Key words : eclogite, garnet, tectonic block, P-T-t path,
⁴⁰Ar/³⁹Ar geochronology, subduction

柱 (running head) 書評・地球科学の窓以外の原稿には、柱(各ページ上部欄外の見出し)の原稿をつける。著者名と論文表題はそれぞれ30字以内とする。

見出し 見出しには原則として番号を付けない。大見出しは前後1行あけてセンタリング。中見出しはゴシック体指定、前1行あけてセンタリングする。小見出しはゴシック体指定、左詰め改行。これ以下の小見出しは、著者が必要に応じてつける。

図・表・図版の作成 描画ソフトによる画像ファイル、紙原図とも受け付ける。図や図版の内容上大きさの表示が必要なものは、何分の1のような文字表示ではなく、スケールを図示する。手書きの図は、図表ごとに別々の白紙に黒インクで製図する。図・表・図版の欄外に著者名と図・表・図版番号を記入する。

図・表の大きさ 原図の大きさは40×50cmを超えないものとする。製版の際に縮小する場合には、文字・模様の高さや線の太さに注意する。縮小率は著者が指定するが、原寸～70%縮小が最適である。図の最大限は、刷上り見開き頁(A3判)までとし、折り込みの図はつくらない。

図・表・図版の説明 図・表・図版の説明文は文献原稿以降の頁に番号順にまとめて書く。原著論文、総説、短報の説明文は和文英文併記または英文とする。

図表の挿入位置 本文原稿の欄外に図表の挿入箇所を明示する。

地形図 原図としてそのまま使用する場合は次のように明示する。

(例) この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「東京南部」を使用したものである。

印刷字体の指定 イタリック・ゴシック・小キヤピタルなどの字体は、MS Wordの字体機能で著者が指定する。数式などでは上ツキ、下ツキ、大文字、小文字等を指定する。ギリシャ文字等で誤植しやすいものは赤で指示した方がよい。

謝辞 謝辞が必要な場合は、文献欄の前にまとめて記す。

本文中の文献引用 下記の例にならう。

秋山(1994)は、……

田崎・高須(1994)によると、……

田切ほか(1994)は、……

……とされている(土屋1993, 1994; 大西1994)。

Hirai and Kondo(1994)……

Kuroda et al.(1994)……

……(Ishiga et al. 1994)。

引用文献リスト 末尾に文献として一括し、著者名のABC……順、同一著者のものは公表年順、年が同じものはa, bを付けて並べる。雑誌名は、慣例的な略記にしたがう。欧文雑誌においては、略記の意味のピリオドは使わない。

[文献の配列] 筆頭著者が同じ論文は、下記の配列にする。

① 単著論文を公表年順。

② 2名共著論文は第2著者のABC順を優先した上で公表年順に並べる。

③ 3名以上の共著論文は第3著者以降の著者名の順に関らず筆頭著者ごとの公表年順とする。これは、3名以上の文献を本文中で引用する場合、「黒川ほか(1990)」などの表現となり、第2著者以降の名前が隠れてしまうので、年代順に並べると判別しやすくなるため。

[文献表記の例]

房総地団研グループ(1963)黒滝不整合における削剥量とその意義。地質雑, 69: 88-89。

藤田至則(1973a)新生代後期の日本列島における造構力の解析をめぐって。地球科学, 27: 245-249。

藤田至則(1973b)日本列島の成立。築地書館, 257p。

比企団体研究グループ(2004)関東山地北東縁部の比企丘陵-吉見丘陵-荒川河岸地域の中新統。地団研専報, 52: 1-34。

北陸電力株式会社(2016)志賀原子力発電所2号炉敷地の地質・地質構造(概要)。原子力規制委員会第368回審査会合, 資料1-1。http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10742002/www.nsr.go.jp/data/000153215.pdf(参照2020.1.4)(Webで公開されている資料は参照日を記述する。)

Huzita, K. (1969) Tectonic development of southwest Japan in the Quaternary Period. Jour Geosci Osaka City Univ, 12: 53-70。

Ikebe, N. and Chiji, M. (1969) Neogene biostratigraphy and geochronology in Japan. Occas Pap Osaka Mus Nat Hist, 1: 25-34。

Klein, G. V., Okada, H. and Mitsui, K. (1979) Slope sedimentation in small basins associated with a Neogene active margin, western Hokkaido Island, Japan. In: Doyle, L. J. and Pilkey, O. H. (eds), *Geology of continental slopes*, Soc Econ Paleont Mineral, Spec Pub, 27: 359-374.

中川久夫・蟹澤聰志・永広昌之・長谷川四郎 (1989) 第1章総説. 日本の地質「東北地方」編集委員会編, 日本の地質2 東北地方, 共立出版, 1-4.

Ramberg, H. (1981) Gravity, deformation and the Earth's crust — In theory, experiments and geological application. Academic Press, London, 452p. (海外の出版社はその所在地も記述する.)

Shishikura, M., Echigo, T. and Namegaya, Y. (2009) Evidence for coseismic and aseismic uplift in the last 1000 years in the focal area of a shallow thrust earthquake on the Noto Peninsula, west-central Japan. *Geophys Res Lett*, 36: L02307, doi: 10.1029/2008GL036252. (電子出版等でページ番号では特定できない場合は doi を記述する.)

武井明朔・村井武文・平野英雄 (1976) 関東山地北東縁部の地質構造. *地質学論集*, 13: 25-31.

3. 英文原稿の書き方

原稿の書式と書き方 A4判の用紙を用い, 上下・左右の余白を十分にとり, ダブルスペースで書く.

語学上の問題 原稿は語学的に難点の少ないものであることを要し, 著者の責任において完全を期す.

ローマ字書きした原名 人名, 地名, 地層名などで日本語及び漢字による原名をローマ字書きした場合は, 周知のものを除き, 文末に ABC……順に, ローマ字書きと原名(漢字など)を表示する.

論文の言語の表記 英語以外の言語で書かれた論文を引用した場合には, 文献リストにおいて, その論文名の末尾に * を付し, 文献欄の最後に * などの意味を説明する.

(例) * : in Japanese with English abstract

その他 上記事項のほかは日本語原稿の書き方に従う.

4. 投稿の手續・処理

(1) 投稿する際は, 本文・英文要旨・和文要旨・図表・図版・図表説明文などをとりまとめたファイル, 原稿整理カードおよび投稿原稿チェックシートの電子ファイル一式を下記編集委員会宛に送付する. なお, 原稿整理カード等は, 地団研のホームページ (<http://www.chidanken.jp>) からダウンロードすることができる.

投稿時は電子ファイルのみ受け付ける. 紙原図はスキャン画像にして投稿原稿とすること. 投稿ファイルは, MS Word 形式 (Word 2007 以降) ファイルとし, 本文のほか図表などは原稿末尾に配置, ファイル容量が 10MB 以下になるよう調整する. ただし, 図が劣化し査読に支障を来すと思われる場合は, 図表のオリ

ジナルファイルを送信するよう依頼することがある. 件名に「地球科学投稿」と書き, 原稿整理カード・投稿ファイル・投稿原稿チェックシートを添付したメールを下記編集委員会宛に送信するか, ファイル転送サービスの利用, USB メモリ等の媒体を郵送する.

- (2) 原稿が編集委員会に到着し, 受け付けを確認した日を受付年月日とする. 完全原稿が到着し, 編集委員会が掲載を妥当と認めた日をもって受理年月日とする. 原稿は受理年月日順に掲載することを原則とするが, 編集の都合および全体との関係で多少変更することもある. 掲載原稿には受付年月日と受理年月日を明記する.
- (3) 受け付けられた原稿は会員または非会員によって査読される. 査読の結果を参考にして, 担当エディターは著者に原稿の修正・訂正を求めることができる. 担当エディターが著者に修正・訂正を求めて返却した原稿が, 6ヶ月以上たつて原稿送付先に返送されてきた時は新規投稿として扱う.
- (4) 掲載受理通知があった後に, 完成原稿の1セットを添付ファイル, ファイル転送サービス, USB メモリ等で編集委員会に送る. それには, 印刷字体の指示を書き込んだ本文, 英文要旨, 和文要旨, 図表の説明, 柱の原稿, キーワード, 図表の原図, 図版, およびそれらすべてのファイルが含まれる. 本文ファイルは原則として, MS Word 形式 (Word 2007 以降) の文書とする. 図表ファイルは jpg や png 等の一般的な形式とし, 開けないファイルは, 印刷されたものを原稿とする.
- (5) 掲載後の投稿原稿は原則として返却しない. ただし前もって請求があれば, 図・表・図版の原図については返却可能である (送料は著者負担とする).
- (6) 図表, 図版などの返送請求などは, 原稿整理カードの備考欄に明記する.
- (7) 著者による校正は初校のみである. この際も原稿は返送されないため, 必ずコピーをとっておく.
- (8) 制限頁数を超過した分については, 著者が実費を負担する.
- (9) この規程で処理できない問題が生じた時は, 事の性質に応じて, 編集委員会, 全国運営委員会事務局, 全国運営委員会などで処理される.

電子投稿

e-mail: chikyukagaku-ml@aist.go.jp

電子投稿できない場合 (USB メモリ等の郵送先)
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央7
産業技術総合研究所 地質情報研究部門気付
地球科学編集委員会

投稿にあたってのお願い（補足）

フォトの性格：地球科学の原稿の種目では、原著論文・総説・短報がいわゆる論文であり、学術的新規性（新しいデータ・アイデア）が必要とされます。フォトはグラビアという位置付けであり論文ではないので、新発見など学術的要素の強い写真の場合はフォトでなく短報としてください。なお、フォトと短報を併用することもできますのでご活用ください。

図表の作成：印刷面の大きさは、1頁の片側が82×245mm、全面が175×245mmです。この外形に調和した比率の図・表を作成すると、過大な縮小がいらぬ体裁の良い図となります。1頁全面を使用する場合は、説明文を置く余地を考慮してください。表においては、適切な大きさの文字と行間隔を使って、コンパクトにしてください。

字体指定：投稿規程の「印刷字体の指定」では、イタリック・ゴシック・小キャピタルはMS Wordの機能で記入することになっていますが、下線で記入しても構いません。イタリック字体：赤で1本の下線、ゴシック体（太字体）：赤1本の波型下線、小キャピタル：赤2本の下線。

綿密な最終チェックを：MS Word形式（Word 2007以降）の文書ファイル（本文、英文要旨、和文要旨、図表の説明文、柱）、図、表などの有無と中身のチェックをして下さい。

著者校正で多少の校正はできますが、修正の必要がないような完成度の高いものを提出して下さい。

電子投稿について：電子投稿では、MS Word書類（.docx形式）を受け付けます。受理後の入稿時にはWord 2007以降、表は.xlsx形式でなく画像にしてください。ファイル名は、先頭に著者名をつけ、その後にファイルの内容をつけて下さい（例：竹内本文.docx、竹内第1図.jpg、など）。

『地球科学』別刷り・超過ページ・オープンデータ搭載の料金について

1. 『地球科学』の別刷りについて

連絡責任者に、オールカラーのPDF版ファイル（高画質）を無料で配布する。

これとは別に別刷り（カラー印刷）を希望する場合は、下表が印刷代金の目安となる。

（Web印刷のため、代金が若干変動することがある。）

部数 \ 頁数	1~2p	3~4p	5~8p	9~12p	13~16p	17~20p	21~24p	表紙あり
~50	2,500	6,000	14,000	18,100	24,000	29,900	35,800	+4,200 ~4,600
~100	2,500	6,100	14,500	18,700	24,800	30,800	36,900	
~150	2,800	6,600	15,900	20,500	27,200	33,900	40,600	
~200	2,900	6,800	16,400	21,200	28,100	34,900	41,800	

（単位：円）

1～4頁は表紙無しのみ。5～24頁は中央を2カ所ホッチキス止めした中綴じ製本。

各枠内の最大頁数に満たない分は、空白頁が最後に挿入される。

200部を超える場合は、原則として100部あたり3,000円増とする。送料は無料。

2. 超過頁料金

「投稿規程1. (4) 原稿の長さ」の制限頁を超えた場合の超過ページ料金：20頁まで1頁ごとに8,000円。21頁から24頁まで1頁ごとに12,000円。

3. オープンデータ登録料金

論文（原著論文・総説・短報）の補足資料や根拠となるデータ（オープンデータ）をJ-STAGE Dataに登録するための料金。当面の間、これを無料とする。

投稿規程などの改定の要点

- ・ MS Word は Word2007 以降形式（拡張子が .docx）を受け付けます。Word2003 までの .doc 形式は既にメーカーサポートが終了しておりセキュリティ上の問題があるため受け付けません。
- ・ 75 巻より資料の内容が追加変更され最大頁数が 10 頁になりました。また原著論文、総説、紹介の最大頁数が 24 頁となりました（制限刷上り頁数は 16 頁で変更ありません）。
- ・ 投稿時に投稿原稿チェックシートを添付していただくことになりました。
- ・ 地球科学の論文（原著論文・総説・短報）の補足資料や根拠となるデータ（地球科学オープンデータ）を電子ファイルの形式で J-STAGE Data に掲載できるようになりました。オープンデータに関する詳細を地球科学オープンデータに関する細則に定めました。
- ・ 各種プレプリントサーバに公表した原稿を地球科学では新規投稿として受け付けることを認めることといたしました。
- ・ 地球科学の内製化に伴い、A4 変形判から A4 判となり、図表の外形の大きさが若干の変更となります。また、印刷はオールカラーです。カラーページ特別料金は必要ありません。
- ・ 著者には、論文の PDF 版ファイルを無料で配布します。冊子体の別刷りを希望の場合は代金が必要です。別刷り印刷代金に変更になっています。

地球科学原稿整理カード記入の際の注意点

- （注 1）著者が団体名の場合でも、雑誌の脚注にその構成メンバー名を掲載できますが、J-STAGE 検索データとしては登録が出来ません。この場合、団体メンバーの個人名では検索できない文献になってしまうため、少なくとも筆頭著者は個人名であることを推奨します。
- （注 2）代表者の連絡先として、雑誌の脚注には住所・E メール等を掲載することができますが、J-STAGE 検索データの連絡先登録は E メールのみとなります。J-STAGE 検索データとして個人の連絡先を掲載したい場合は、E メールを記述して下さい。
- （注 3）J-STAGE 検索データとして、e-Rad 研究者番号、ORCID iD の登録が推奨されています。お持ちの方はご記入願います。なお、著者が多い場合は、本カードにおいては筆頭著者のみでも構いません。受理後にお知らせ下さい。

地球科学原稿整理カード (No.)

著者氏名 (注1)	和文		
		
	英文		
		
連絡責任者	氏名		支部名：
	連絡先	〒 -	
	E-mail：	@	連絡先としてEメールをJ-STAGEに登録 (する・しない) (注2)
	TEL：	- -	FAX： - -
表題	和文		
		
	英文		
		
用語種別	和文 英文	原著論文・総説・短報・ノート・討論・紹介・資料・用語解説・フォト・書評 地球科学の窓・地学者列伝・地球科学入門講座・日本の露頭・その他()	
原稿	(本文36字×36行 枚) (英文要旨 枚) (和文要旨 枚)		
	(図： 枚) (表： 枚) (図版： 枚) (図版説明： 枚) (オープンデータ：有・無)		
	図表を含む刷上り見込みページ数 (文章は36字×36行で1/2ページ分です)： ページ		
研究費助成	有・無 (種類・課題番号等：)		
e-Rad 研究者番号 (注3)			
ORCID iD (注3)			
別刷	PDF版ファイル (高画質) は無料配布。冊子の別刷りを希望する場合は下記に記入。		
	必要部数：	部 (50部単位) 表紙はつきます。	支払 (私費・公費)
	公費支払いの場合の請求書類宛先：		
査読者 (特に希望がある場合に記入)	希望する査読者氏名：	原稿投稿日	
	希望しない査読者氏名：	年 月 日	
備考			
受付日	受理日	最終原稿受領	掲載号
			巻号

太線内を記入して下さい。 選択肢のあるものは○をして選んで下さい。 もう一度投稿規定をよく読んで下さい。

投稿原稿チェックシート

投稿の際には、以下の項目をもう一度確認してチェック（✓）を入れてください。

チェックが入らない項目がある場合は、原稿を修正し、あらためて投稿原稿を作製してください。必要があれば原稿整理カードの修正もお願いします。

地球科学編集委員会

本文原稿

	用語や用法は全体を通じて統一されていますか？
	観察事実と解釈は区別して記述してありますか？ 記載と考察はなるべく章または項を分けるようにし、最低でも必ず段落を分けてください。
	章（大見出し）、項（中見出しまたは小見出し）の構成は本文全体を通じて整理してありますか？
	難読の固有名詞にはルビをふってありますか？
	イタリック字体、ゴシック字体、上ツキ下ツキなどの指定はきちんとしてありますか？
	図表の挿入位置を本文原稿の右側余白に記入してありますか？
	英文は正しく書かれていますか？（できればネイティブによる校正を受けることが望ましい）
	文献の引用はきちんとしてありますか？ 引用されている文献のもれや、引用のない文献はありませんか？
	未公表資料（卒論、修論、連絡紙など）の引用はできません。これらの引用はありませんか？
	本文中の文献引用や引用文献リストの書式は投稿規程のとおりになっていますか？
	原著論文、総説、短報の図表の説明文は和英文併記または英文になっていますか？
	制限刷上りページ数を越えていませんか？（文章は 36 字× 36 行で刷上りの 1/2 ページ分です）

図表

	図表は正確にきれいに描けていますか？
	図表の縮小率を指定してありますか？ 縮小率は図表の横幅によって決まり、1 段幅 82 mm か、2 段幅 175 mm が基本です。縦は最大 245 mm です。 図表を 1 ページ大にする場合は、説明文を置く余地を残してください。
	縮小したとき、文字や凡例の様子が大きすぎたり小さすぎたり、つぶれたりしていませんか？
	地質図・地形図には必要に応じて小縮尺の索引図がつけてありますか？
	引用した図表の出典は明記してありますか？
	引用した図表を著作権者の許可なく改変していませんか？
	同じ地形基図による図や同じ形式の図表が複数ある場合、書式・凡例・縮小率は統一してありますか？
	写真は鮮明ですか？ 周囲の不要な部分をトリミングしてありますか？
	写真にはスケールのほか必要に応じて記号や矢印を記入してありますか？

地球科学オープンデータに関する細則

- 地球科学オープンデータ（以下、オープンデータとする）は、地球科学の論文（原著論文・総説・短報）の補足資料や根拠となるデータ（図、写真、表、記載等）の電子ファイルとする。オープンデータは、メタデータおよび固有の DOI とともに J-STAGE Data に登載され、J-STAGE Data の読者に対して無償で配布される。メタデータには、オープンデータの著者名、表題、データ掲載年月日、キーワード等とともに、地球科学に出版された元論文のタイトル、DOI が記載され、CC ライセンス (CC BY-ND 4.0) を付与してオープンアクセスとして公開される。
- オープンデータは、以下の 1) ～ 4) の要件を満たす必要がある。
 - 元論文にとって重要な補助的情報であるとともに、地学団体研究会会員をはじめ J-STAGE Data の利用者にとって公開の意義が認められること。
 - 一次データや事実の記載に限られ、それらの解釈や考察・議論を含まないものであること。
 - 主要な部分はこれまでに学術雑誌等に公表されていないオリジナルなものであること。
 - オープンデータとする電子ファイルは、1 論文につき原則 10 ファイルまでとし、1 ファイルの大きさに制限はないが、投稿時の 1 ファイルは 10 MB までとする。ファイルの形式も制限はないが、データを再利用がしやすい汎用的なファイル形式が推奨される。
- オープンデータの原稿は、元論文の原稿と同時に投稿され（元論文の原稿整理カードにオープンデータがあることを記入する）、査読を経て編集委員会により掲載の可否が審査される。
- オープンデータの原稿を投稿する際、以下の情報を添付する必要がある（記述は英語による。ただし、日本語論文には①②⑥の日本語併記が必要）。
 - ①オープンデータの表題（データ内容を適切に表現し、表題だけで内容がわかることが必要。一般的には元論文の表題とは異なる）
 - ②著者名と連絡責任者 (corresponding author) のメールアドレス
 - ③データの分野（別表 1 参照） 記載例：Basic Sciences/ Earth Sciences and Astronomy
 - ④データのタイプ（別表 2 参照） 記載例：Dataset/Dataset
 - ⑤キーワード（10 語以内）
 - ⑥データ説明文（半角 5000 字以内；複数のファイルを公開する場合は、各ファイルの説明を記載）
 - ⑦助成金情報（科研費および JST のプロジェクトについては、課題番号のみの記載）

附則

本細則は、2023 年 1 月 1 日から施行する。

別表 1 データの分類

1 階層	2 階層
Basic Sciences	Chemistry, Earth Sciences and Astronomy, Mathematics, Physics
Engineering and Technology	Architecture and Civil Engineering, Electrical and Electronic Engineering Engineering in General, Mechanical Engineering, Nanosciences and Materials Sciences
Humanities and Social Sciences	Anthropology, History and Geography, Economics, Business & Management, Law, Political Sciences, Literature, Language & Linguistics and Art, Philosophy, Religion, Psychology, Education, Sociology
Interdisciplinary Sciences	Environmental Sciences, Information Sciences, Interdisciplinary Sciences
Life Sciences	Agriculture and Food Sciences, Biology, Life Sciences and Basic Medicine
Medical and Health Sciences	Clinical Medicine, Dentistry, General Medicine, Social Medicine, and Nursing Sciences, Pharmaceutical Sciences

別表2 データのタイプ

データのタイプ	セットされる属性
Figure	Image
Media	Audiovisual
Dataset	Dataset
Poster	Dataset
Journal Contribution	Dataset
Presentation	Dataset
Thesis	Dataset
Software	Software
Online Resource	Dataset
Preprint	Dataset
Book	Dataset
Conference Contribution	Dataset